

などの山は、立科町の「精神の脆弱化」の象徴と思えてなりません。

子どもに起こっている問題は、すべて大人に起因していますので、子どもの健全やかな成長と自立を願うならば、大人は「エゴイズムの自制」「自立の精神と気概」「指導的立場にある者の勇氣ある発言」「壁としての古い世代」「物質優先社会からの脱皮」という五つの教訓を真摯に受け止めなければなりません。ちっぽけな我欲にとらわれず、大人が清廉潔白に生きる社会、それが何よりも望ましい子育て環境であるからです。

詩人の坂村真民は、人にへつらうことなく、自分のめざす道を自分なりに、自分らしく誠実に、毅然と歩くために、「しんみん五訓」という詩を作り、自戒としていたそうです。

しんみん五訓
クヨクヨ するな
フラフラ するな
グラグラ するな
ボヤボヤ するな
ペコペコ するな

「精神の脆弱化」の典型と自覚している身でさえ、「真民の如く、自戒の『五訓』を定めよ。そして、それを懸命に守れ。」と、青く澄んだ八天台の広大な空に向かって叫びたい心境です。

人権が尊重される社会

人権センター(社会教育人権政策係)

人権センターだより

子どもの権利とは

「人権の世紀」ともいわれる21世紀。しかし、これからの社会を担う子どもたちが、いじめ、体罰、虐待の犠牲になるなど、大きな社会問題となっています。

子どもは、たまたま年齢が低いというだけです。同じ人間として大人同様に人権が備わっているのです。

いじめ

いじめは深刻な社会問題です。いじめが原因による自殺やリンチによる傷害など、痛ましい事件が後を絶ちません。

いじめの背景は様々です。勝ち負けだけで物事を判断する大人社会や学歴偏重主義、学校や家庭におけるストレス、人間関係……など多くの要因があげられます。

特に近年では「学校裏サイト」などと呼ばれるインターネット上の掲示板やEメールを悪用するなど、巧妙かつ陰湿なケースのいじめが多く、問題として発覚しにくいものもあります。軽い気持ちで、いじめだという自覚もなく始めたことが次第にエスカレートし、深刻な問

題となるものも少なくありません。また、自らがターゲットになることを恐れ、いじめに加担したり、見てみぬふりをするようなこともいじめを助長する要因となっています。「いじめられる側にも問題がある」という声がいまだに聞かれますが、いじめを正当化する理由など存在しません。

いじめにあった子どもは悩み苦しみ、自分に非があると思うようになり、その後の人間形成に悪影響を及ぼす可能性があります。さらには、いじめを見てみぬふりをしたり、いじめた側の子どもたちも、その後の成長の中で自らが行ったことを振り返り、精神的に苦しむこととなります。いじめは、被害者だけでなく、傍聴者も加害者も不幸にするのです。

また、いじめは、当人同士での解決が困難な問題です。子どもは、周囲の大人に対して、なかなか相談しないものです。大人は、日ごろから、子どもの話に耳を傾け、学校や家庭、そして地域社会が連携して解決のための手助けをするとともに、いじめをなくすために、人権の大切さを伝えていくことが必要です。

参考 (財)人権教育啓発推進センター 人権ポケットブックより

男女共同参画セミナー 開催

2月25日(土)立科町中央公民館において、男女共同参画推進委員会と公民館の主催により男女共同参画セミナーを開催しました。

講師に信州豊南短期大学講師の小濱知実さんをお招きして「私にデキル、今すぐデキル、男女共同参画」の演題で、1コマ漫画から身近な問題をわかりやすく講義していただき、参加者からは、「今日から頑張っていきたい」などの声をいただきました。

